



1. 活動日時：2015年5月9日（土） 10：00～13：00
2. 参加者： 16名
 - ・現役GS：6名 社友GS：7名
 - ・フクロウの森づくり社外ブレン 3名
 - ※きしわだ自然資料館 学芸員 風間 美穂 氏
 - ※気象庁、鳥類標識調査員（Bird Bander） 西垣 士郎 氏
 - ※カワセミ写真クラブ 幹事長 成瀬 正夫 氏

3. 活動内容

- ・当日は、前日の気象予報が外れ、麓のSGC駐車場に集合した時点から雨模様の天気になりました。
- ・それでも全員入山し、雨対策でターフテントを張り、スタンバイしたのですが、小雨ながら降ったり止んだりの状況が続いたため、活動は昼食までとし、3名の社外ブレンの方々を囲んでのフクロウ談義に花を咲かせました。
- ・SGCのモットーが、無理せず楽しむことですし、フクロウの子育て期間が過ぎれば、竹林の整備と草刈などの育林作業が続きますから、このような日も有って良いと思います。

■ターフテントを張って、談笑して、昼食を取って解散。 ・撮り貯めしたフクロウの映像を見ながら和気藹藹。



ターフテント張り。張るのは7～8年ぶりです。



成沢さんの写真集を見たり・・・。画像を見たり・・・。



午前で活動終了の岡田さんと香遠さんを囲んで一枚。

- ・写真右の赤い上着の方がカワセミ写真クラブの成瀬さん、その右のタオル鉢巻の方が気象庁の西垣さん、その右の立っておられる女性の方がきしわだ自然資料館の風間さんです。
- ・カメラマン、自然保護・再生、学術研究と立場は違いますが、いずれもフクロウについては、思い入れの強い方々ですから、色々奥の深い話を沢山聞くことが出来、有意義なひとときを過ごすことが出来ました。

- ・フクロウは留鳥で、一度営巣すると続けて営巣する傾向があることから、昨年撮り貯めた巣の内外の動画や静止画を見ながら今後の進め方について話し合いました。
- ・巣穴の位置は上と横のどちらが良いか、大きさはどうか、底までの深さはどうかなどなど話題は尽きません。
- ・特に神於山の場合、天敵はカラスで、同じ鳥類ですから、カラスを防ぐ方法はフクロウにとっても良くないので更に工夫が必要になります。



久しぶりに張ったのだからと、集合写真もテント中で。

■復習：フクロウの生態。 夜のハンターとして、フクロウは特殊な才能を持っています。これだけでも興味が尽きません。

1. バラボラアンテナのような顔。

- ・フクロウ類の顔は、大きくて平たく、顔盤の縁は先端がカールした細くて長い羽がびっしりと並び、嘴の周りには、髭のような羽が無数に生え、大きな目はすり鉢状に深く窪んでいます。
- ・この羽を含めた顔面の構造が、バラボラアンテナの様に機能し、音を効率よく耳に集める仕組みになっています。

2. 音源を立体的にとらえる耳。

- ・鳥類の耳には耳殻が無く、目のすぐ横の羽毛をめくると、大きな耳の穴が開いています。
- ・フクロウ類も同じですが、左右の穴の高さと向きが非対称であることから、音源から左右の耳（鼓膜）までの距離に差が付き、両耳に達する音の時間差と音圧の差から、音源を立体的に突き止めることが出来るといわれています。

3. 少ない光でも良く見える高性能な眼としなやかな首。

- ・フクロウ類の眼球は、集光効率を高めるために特に大きく、しかも眼全体がレンズの大きな双眼鏡のように筒状の構造をしています。
- ・網膜には、薄闇下でも明暗を区別し、急激な動きを感知する桿状細胞が多いので、少ない光でも動く獲物をしっかり認識できます。
- ・一方、フクロウは眼球が眼窩に固定されていて眼球を動かすことが出来ませんが、頸骨が 12~14 本と多く、首を左右それぞれ 270 度も回せることでカバー。
- ・絶えず顔をあらゆる方向に向けて音源を正確に特定し、性能の良い眼で確実に像を解析し、獲物を特定します。

4. 消音飛行を可能にする羽。

- ・フクロウは森の忍者と言われるほど音もなく飛び、獲物に襲い掛かることが出来ます。
- ・その秘密は、見た目より骨格が小さく小柄なフクロウは体重も軽く身軽なことと、幅広く丸みのある翼と体の羽毛には表面に軟らかい毛が生えており、初列風切の外側がギザギザと鋸歯状に発達していて、音を立てずに飛ぶことにあります。
- ・雛を観察する際、不用意に巣に近づくと音も立てずに飛ぶ親鳥の一撃を受け、思わぬ怪我をすることがありますから十分な注意が必要です。

5. 頑強な足。鋭い爪。

- ・足は太く頑丈で、4 本の足の指の内、外側の 2 本は関節が柔軟に動くため、足の指を前後 2 本ずつにして獲物や止まり木をしっかりとつかむことが出来ます。

6. 視界を妨げない小さな嘴。

- ・嘴は、視界を妨げないように顔の割には小さく下部に湾曲していて、口幅が大きいのが特長です。
- ・これは、フクロウは、ワシタカのように、狩った獲物を引き裂いて食べるのではなく、そのまま丸呑みして消化した後、消化出来なかった骨・羽根・毛などを「ペリット」という塊にして吐き出す為です。
- ・ペリットを分析すると、そのフクロウの食性が明らかになります。

※上記は、文一総合出版「フクロウ その秘密と行動の神秘を解き明かす。」等を参考にしました。